

東邦大学学術リポジトリ

Toho University Academic Repository

タイトル	Summonが繰り出す文献検索とは 東邦大学における活用事例
作成者（著者）	黛, 崇仁
公開者	日本薬学図書館協議会
発行日	2019.01
ISSN	03862062
掲載情報	薬学図書館. 64(1). p.54 59.
資料種別	学術雑誌論文
内容記述	解説
著者版フラグ	publisher
メタデータのURL	https://mylibrary.toho u.ac.jp/webopac/TD28093367

Summon が繰り出す文献検索とは —東邦大学における活用事例—

黛 崇 仁*

【抄録】 現在、大学図書館では、従来の印刷版資料に加え、電子ブックや電子ジャーナル等、多数の電子版資料を提供しており、東邦大学においても早くから導入してきた。電子版資料は、図書館の開館に関わらず、いつでもどこからでも利用できるメリットがある。そのため、電子版資料を有効利用してもらうためには、ただ契約するだけでなく、利用しやすいアクセス環境を用意する必要がある。東邦大学では、電子版資料を提供するための環境構築の一環として、2012年8月にディスカバリーサービス Summon を導入した。本稿では Summon の導入経緯および導入後の取り組みや利用状況について報告する。

【キーワード】 ディスカバリーサービス、ウェブスケールディスカバリー、Summon、OPAC、大学図書館

1. はじめに

現在、大学図書館では、従来の印刷版資料に加え、電子ブックや電子ジャーナル等、多数の電子版資料を提供しており、東邦大学（以下、本学）においても早くから導入してきた。

電子版資料は、図書館の開館に関わらず、いつでもどこからでも利用できるメリットがある。そのため、電子版資料を有効利用してもらうためには、ただ契約するだけでなく、利用しやすいアクセス環境を用意する必要がある。また、利用者は電子版資料だけを探すとは限らず、使いたい資料であれば電子版でも印刷版でも構わないこともある。そのため、印刷版資料と同様に電子版資料についても目録を作成し、それを印刷版資料の目録と一緒に検索できる必要がある。しかし、電子版資料の多くが年間利用契約であり、出版社による提供方法にもバリエーションがあるため、利用できる資料の変動が大きく目録作成が難しい。したがって、電子版資料は印刷版資料と合わせた資料検索がしにくいデメリットがある。

本学では、電子版資料を提供するための環境構築の一環として、2012年8月にディスカバリーサービス Summon を導入した。ディスカバリーサービスの導入によって、メディアセンターで提供する情報が一つのインターフェースから検索可能となり、利用者に必要な情報をつなぐことが可能となった。

本学における Summon の導入事例については眞喜志らの報告¹⁾に詳しいが、本稿では Summon の導入経緯

および導入後の取り組みや利用状況について報告する。

2. 東邦大学におけるオンラインサービスの環境構築

本学は学祖の額田豊・晉兄弟により1925年に創立された帝国女子医学専門学校を前身として、現在は東京都大田区に医学部と看護学部、千葉県船橋市に薬学部と理学部、健康科学部の5学部を擁する自然・生命科学系の総合大学である。また、医学部は、医療センター大森病院、大橋病院、佐倉病院の3病院と羽田空港の国内線・国際線にクリニックを有する。このように、キャンパスや病院が分散しているが、学問の主題が医学を中心とする自然・生命科学系にまとまっており、各地区に同じようなニーズを持つ利用者がいることから、本学では電子版資料のメリットを活かせると考え、積極的にその導入を進めてきた。しかし、電子版資料が充実するに伴い、オンラインサービスの提供に関する様々な課題も生じてきた。そこで、2010年4月にオンラインワーキング（以下、ワーキング）を設置し、課題解決とサービス向上に取り組んだ。

2.1. データベースからフルテキストへのアクセス

電子版資料の導入からしばらくは、メディアセンターのウェブサイトを利用可能な電子版資料のリストを公開していた。また、文献データベースからは電子版資料へのリンクを張っていた。そのため、雑誌名の変更、URLの変更、利用できる資料の変更が発生すると、スタッフがその都度メンテナンスをしていた。しかし、電子版資料は増える一方で、スタッフによるメンテナンスには限界があった。

そこで、データベースから様々なプラットフォームで提供されている電子ブックや電子ジャーナル等の各種リソースヘシームレスにアクセスできるよう、2010年9

* Takahito MAYUZUMI
東邦大学医学メディアセンター
〒143-8540 東京都大田区大森西 5-21-16
E-mail: mayuzumi@mnc.toho-u.ac.jp

月にリンクリゾルバの 360LINK を導入した。PubMed や医中誌 Web 等、データベースの検索結果に表示されるリゾルバのアイコンをクリックすることによって、本学の印刷版資料の所蔵状況や電子版資料の契約状況を確認でき、契約している電子版資料については本文の閲覧まで可能となった。

2.2. 学外からオンラインサービスへのアクセス

電子版資料はインターネットの接続環境があれば、図書館が閉館していても利用可能である。しかし、契約上その利用範囲は学内ネットワーク環境に限られていた。そこで、時間や場所にとらわれない利用を提供するため、2011年2月に学術認証フェデレーション「学認」を導入した。学認は、複数のオンラインサービスのログインを共通化するシングルサインオンの仕組みで、学認に対応しているサービスは、学外のネットワーク環境からでもサービスを利用することが可能となる。本学の学生は、医学部や薬学部、看護学部など実習先に長期間通う機会があり、教員も外部機関へ出る機会があるため、学認導入後はオンラインサービスが学外からも積極的に利用されるようになった。

2.3. 印刷版資料と電子版資料を対象とした検索

医学を中心とした自然科学分野は、学術論文のニーズが高く、それらを検索するための文献データベースも発達している。しかし、文献データベースを活用するには検索方法をマスターしなければならず、学生などの初心者にはハードルが高い。また、検索をしてもヒットしない場合、初心者の多くがそこで検索を終わらせてしまうことが課題であった。そして、資料検索では電子版資料と印刷版資料を同時に検索できるようにしたいが、電子版資料はパッケージ契約などで利用できる資料の変動が大きく OPAC への登録が難しいため、印刷版資料については OPAC を、電子版資料についてはタイトルリストを別々に探すしかなかった。そのため、一度に両方を対象とした検索をできるようにすることが課題であった。

これらの課題への対策について検討した結果、大規模総合大学を中心に導入が進んでいたディスカバリーサービスが解決策を提供してくれるのではないかと考えた。

しかし、本学は自然・生命科学系の総合大学であり、医学、薬学、理学、看護学の主題に特化したデータベースを導入していたので、ディスカバリーサービスのような検索が本学においてもはたして有用なのか、まずは利用者ニーズの所在を明確にする必要があった。

3. 利用者ニーズと Summon の評価

メディアセンターの利用対象者は、Summon 導入検討中の 2011年5月1日時点で教員および医師が 801 名、大学院生が 479 名、病院職員が 2,560 名、学生が 4,971 名だった (表 1)。教員や医師、大学院生については文献検索をする機会が多いことから「検索エキスパート」、病院職員や学生については日常的に検索をしていない「検索ビギナー」と位置づけた。本学において検索ビギナーは病院職員と学生を合わせた 7,531 名、利用対象者全体の 85.5% である。このような利用者には、Summon の文献検索における次のような特徴が有効ではないかと考えた。

まず、Summon が検索ビギナーにとって検索にアプローチしやすいという点である。すべてのデータベースや資料を把握し、目的にあわせ、対象を絞って検索することは検索ビギナーには難しいが、Summon であれば検索窓に言葉を入れて検索するだけで、情報を得ることができる。ただし、Summon では専門的なデータベースが持つ高性能な機能が使えない。そのため、主題に特化したデータベースの使い方を検索ビギナーにもマスターしてもらいたいと思うが、Summon はそのきっかけになると期待できる。

次に、検索結果がゼロにならないという点である。検索ビギナーは結果が返ってこないとそこで諦めてしまい検索を終えてしまうことが多いが、Summon だと何かしら結果が返ってくるため、それをきっかけに検索を続けることができる。検索エキスパートにとっても、自分の専門主題以外については検索に躊躇することがあると思われるが、Summon での検索では何かしら結果が返ってくるため、その後の調査に向けて当たりをつけやすく、有効であると考えられる。

また、医学系であれば、PubMed、医中誌 Web は目

表 1 メディアセンター利用対象者 (2011年5月1日現在)

所 属	教員・医師	大学院生	病院職員	学 生
医学部	561	135	—	649
薬学部	70	66	—	1,431
理学部	105	236	—	2,317
看護学部	54	42	—	451
大森病院	—	—	1,339	—
大橋病院	—	—	622	—
佐倉病院	—	—	599	—
佐倉看護専門学校	11	—	—	123
合 計	801	479	2,560	4,971

的をもって検索されるが、それ以外のデータベースは余程のニーズの高さがないと単独ではなかなか検索されない。そのような、利用されにくいデータベースの情報も Summon では検索対象となるため、新たな発見につながる可能性もある。

そして、検索ビギナーはデータベースの操作方法がわからないために検索を敬遠してしまうこともあると思われるが、Summon は Google のようなシンプルなインターフェースで検索に対するハードルが低くなっている。また、Google の検索結果は玉石混交だが、Summon であればデータの質が担保された学術情報を、Google のように検索することができる。

自然・生命科学系において、専門的なデータベースを使いこなすためのスキル習得は必須である。そこで、メディアセンターの利用対象者の想定されるニーズと Summon の文献検索の特徴から、Summon を既存のデータベースの代替ではなく、選択肢を追加するものとして評価し、2012年8月にディスカバリーサービスの一つである Summon を導入した。

なお、ディスカバリーサービスの導入にあたり、国内の導入事例やすでに導入していた 360LINK や本学の図書館業務システムとの相性から Summon を選定した。また、導入の際は「TOHO Search」と名称を設定し、サービスを開始した²⁾。

4. 利用向上のための取り組み

Summon 導入後は、ワーキングおよびオンラインサービス戦略会議を2カ月に1回開催してオンラインサービスの課題について検討を行っている。オンラインサービス戦略会議とは、Summon 導入後、2012年12月より開催している会議で、ワーキングメンバー以外にもサンメディア社および ProQuest 社から担当者へ出席してもらい、Summon をはじめ 360LINK 等、契約しているオンラインサービスの最新動向やプロジェクトの進捗状況の確認を行っている。Summon 導入後は、ワーキングおよびオンラインサービス戦略会議を通じて、次のような Summon の利用向上を行ってきた。

4.1. 広報

Summon の広報用に「とほにゃん」というキャラクターを作成した(図1)。このキャラクターは、Summon 導入時に Summon を広報するキャラクターとして、サンメディア社に作成を依頼したキャラクターである。このとほにゃんを使用して、漫画を活用したチラシを主題別や内容別に4種類製作した。

- ①「医学生とほにゃん、レポート作成どうする？こうする！の巻」
- ②「看護師とほにゃん、フィッシュ！で大成功！？の巻」
- ③「TOHO Search は使う場所によって結果が違う！？の巻」



図1 とほにゃん

- ④「理学生とほにゃん、論文本文(フルテキスト)をGetせよ！の巻」

チラシの表面には漫画を配し、裏面には漫画で紹介した機能やサービスを詳しく説明して、目につきやすく Summon の利用状況をイメージしやすいチラシに仕上げている。Summon 導入時には全学に配布したほか、新入学生や新入職員のオリエンテーション時に配布を行っている。

4.2. 独自コンテンツの搭載

独自のコンテンツとして「東邦大学・医中誌診療ガイドライン情報データベース」³⁾および日外アソシエーツの「BOOK データ」を搭載し、必要な情報にたどり着くための機会を増やしている。

「東邦大学・医中誌診療ガイドライン情報データベース」は、本学医学メディアセンターと医学中央雑誌刊行会が共同で主宰するデータベースで、主に学会などの機関で作成され公表された日本の診療ガイドラインのデータベースである。

また、日外アソシエーツが提供する「BOOK データ」を搭載し、OPAC の所蔵データと統合することによって、BOOK データの目次や要旨、著者紹介情報などから、所蔵資料を検索できるよう整備を行っている。これまで、OPAC では書誌情報以外を対象とした所蔵資料の検索は実現できなかったが、Summon によって書籍のもつ様々な情報から検索できるようになり、所蔵資料をより探しやすくなった。

4.3. 検索窓の設置

2016年6月にはメディアセンターのウェブサイトにも Summon の検索窓を設置した(図2)。検索窓から直接 Summon を検索できるようにすることで、利用の促進を図っている。また、検索窓には「東邦大学の所蔵資料・データベース・電子ジャーナル・電子ブック等を一度に探せます」と説明を付記し、検索対象を明確にすることで検索ビギナーの検索への敷居を下げている。検索窓につくとほにゃんについても12カ月分を用意しても



図2 Summon 検索窓

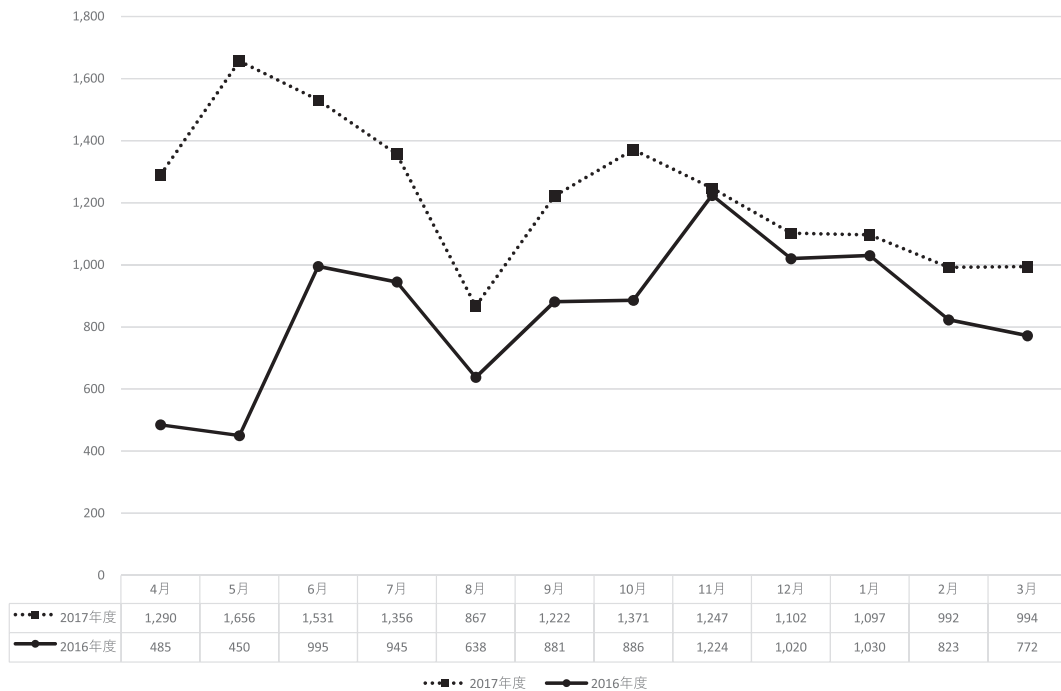


図3 Summon セッション数 (2016年4月～2018年3月)

らい、ウェブサイトに毎月変化をつけるようにしている。

5. 利用状況

このような利用向上のための取り組みを行った結果、2017年度は2016年度と比較して全体的に利用が増加した(図3)。特に、2017年度はワーキングの重点事業としてオンラインサービスの利用促進を行い、Summonについても講習会等で積極的に紹介した結果、利用者に認知され利用が促進されたのではないかとと思われる。また、検索窓の設置も大きな効果をあげており、検索窓設置前の2016年5月は450セッションだったが、検索窓

を設置した2016年6月には995セッションと利用が倍増した。

設置したSummonの検索窓と元々設置しているOPACおよび電子ジャーナル、電子ブックの検索窓がどの程度利用されているか、医学メディアセンターおよび習志野メディアセンター、看護学部図書室のウェブサイトに設置している検索窓のボタンにGoogleアナリティクスのイベントを設定して、2017年10月から統計を取得している。2017年10月から2018年4月までの7カ月間における検索窓の利用は表2のとおりである。Summonの検索窓は、医学メディアセンターウェブサイトの訪問者の約5.8%、習志野メディアセンターウェブ

表2 ウェブサイト訪問者数・Summon 検索窓ユニークイベント数・OPAC 検索窓ユニークイベント数 (2017年10月~2018年4月)

	医学メディアセンター	習志野メディアセンター	看護学部図書室
ウェブサイト訪問者数	45,680	31,034	8,538
ユニークイベント数	2,657	2,054	1,107
Summon 検索窓			
ウェブサイト訪問者数 に対する割合	5.8%	6.6%	13.0%
ユニークイベント数	2,324	3,132	670
OPAC 検索窓			
ウェブサイト訪問者数 に対する割合	5.1%	10.1%	7.8%

表3 Summon 検索キーワード上位 20 件 (2016年1月1日~2018年3月15日)

	Search String	Searches	Results
1	病気がみえる	57	93
2	急性中耳炎	51	3,463
3	毛髪	46	2,918
4	rabla	41	644
5	ビオトープ	40	578
6	地域包括ケア	30	8,528
7	寄生虫	30	14,532
8	退院指導	28	9,542
9	分析化学	26	42,601
10	大動脈バルーン形成	26	357
11	有機反応機構	25	420
12	problem of inference for the azzalini's skew-normal distribution	24	382
13	医中誌	23	12,198
14	pmp	22	17,311
15	両親学級	22	299
16	(titlecombined: (pediatric neurology))	20	712
17	authorcombined: "豊田, 秀樹"	20	182
18	遺伝子治療	20	40,120
19	ハンノキ	19	572
20	化学便覧	19	1,646

ブサイトの訪問者の約 6.6%, 看護学部図書室ウェブサイトの訪問者の約 13.0% が利用していることがわかった。また, OPAC および電子ジャーナル, 電子ブックの検索窓は, 医学メディアセンターウェブサイトの訪問者の約 5.1%, 習志野メディアセンターウェブサイトの訪問者の約 10.1%, 看護学部図書室ウェブサイトの訪問者の約 7.8% が利用しており, 医学メディアセンターおよび看護学部図書室のウェブサイトでは OPAC および電子ジャーナル, 電子ブックの検索窓よりも Summon の検索窓のほうが利用されていることがわかった。

2016年1月1日から2018年3月15日までの Summon の検索キーワード上位 20 件は表 3 のとおりである。資料名や病気の名前, データベース名など, さまざまなキーワードで検索されていることから, メディアセンターの利用対象者の多くを占める検索ビギナーが主に

利用しているのではないと思われる。また, 右端の検索結果数は 2018年3月16日時点での数値となるが, どのキーワードにおいても結果を返しており, 利用者の次の行動につなげていることがわかった。

6. おわりに

本学では Summon の導入から 6 年が経過したが, 6 年の間に Summon の存在が学内で認知され, Summon の文献検索の特徴が利用者に受け入れられた結果, 本学においてなくてはならないツールとなった。しかし, 検索結果がゼロではなく何かしら結果を返していることで, 利用者を安心させて次の行動へとつなげてはいるものの, 利用者が必要とする情報にナビゲートできているかについては検証ができておらず, 今後の課題である。

引用文献

- 1) 眞喜志まりほか. 東邦大学メディアセンターにおける Summon (TOHO Search) の導入事例. 薬学図書館. 59(3), 2014, 182-189.
- 2) TOHO Search. (オンライン), 入手先 <<https://toho.summon.serialssolutions.com/>>, (参照 2018-10-20).
- 3) 東邦大学・医中誌診療ガイドライン情報データベース. (オンライン), 入手先 <<https://guideline.jamas.or.jp/>>, (参照 2018-10-20).

(原稿受付け：2018.11.13)